第15回 日本在宅医学会大会 プログラム別 詳細情報

カテゴリー	一般演題口演
タイトル	市町村単位の在宅医療多職種連携研修会を受講した多職種の意識変化
日　　時	平成 25 年 3 月 31 日　10：40～10：50
会　　場	第８会議室
座　　長	新田クリニック　新田國夫先生
演　　者	東京大学大学院医学系研究科　土屋 瑠見子先生
企画趣旨	【目的】市町村を開催単位とする計 1.5 日間の在宅医療多職種連携研修会を受講した多職種について、受講前後の意識変化等を評価することを目的とした。 【方法】2012 年 3～4 月に、在宅医療に携わる開業医を増やし、地域における多職種の連携を促すことを目的とした在宅医療多職種連携研修会を開催した。本研修は、①同一市内の多職種を受講対象とする、②医師会等地域の関係団体の推薦により受講者を選定する、③多職種討論が研修内に意図的に盛り込まれている等の特徴をもつ。受講対象は、開業医、歯科医師、薬剤師、訪問看護師、介護支援専門員等であり、開業医以外の多職種は、計 1.5 日間の内容となっている。評価は受講前・直後の自記式質問紙により行い、在宅医療に対する意識（「関心」、「実践する意欲」など 4 項目を各 6 件法）、知識評価（「BPSD の管理」など 22 項目を各 4 件法にて自己評価）、開業医・多職種との連携の頻度（「医師から多職種への報告」など 13 項目を各 4 件法）等を尋ねた。本報告では、対象を開業医以外の多職種に限定し、受講前後の変化を wilcoxon の符号付き順位和検定により検討した。 【結果】受講前後の回答が得られた多職種 30 名を分析対象とした。在宅医療に対する意識は、「在宅医療に対する関心」が有意に低下し、他 3 項目は有意な変化を認めなかった。知識評価項目では 26 項目中 10 項目が有意に改善し、「BPSD の管理」、「多職種の役割」、「認知症の終末期のケア」、「自宅での看取りの方法と留意点」の改善が大きかった。連携の頻度については、開業医との連携の頻度は有意な変化がみられず、他の多職種との連携については「他機関・職種への協力要請」が有意に増加し、「他機関にいる専門職の把握」、「患者・利用者に必要なサービスについての他機関・職種への提案」については増加する傾向を認めた。 【考察】本研修の受講により、多職種・多職種間の連携の頻度は改善が見られ、地域のチームビルディングという観点では一定の有効性が示されたと言える。今後、追跡調査を含めた更なる検討が必要である。